

ナノテクノロジー・材料分野プロジェクトチーム報告概要

検討の視点

- 幅広い産業分野に活用される基盤的技術
- 基礎研究は欧米に比して優位
- 用途開発では欧米に遅れ

分野の特性

基礎研究が重要

(不連続な技術の変化、新材料開発や予想外の新たな用途開拓を生む基礎研究の成果が重要)

製品化に向けた知財管理

(研究成果が製品化に至るまでに長期間を要するため、製品化までに基本特許が満了しうる(例:カーボンナノチューブ、フラレン))

大学等の研究成果を産業界との連携により実用化

(大学等研究機関の基礎研究の成果を実用化するには、企業への橋渡しが不可欠)

現状と課題

大学等における用途が明確でない段階での特許出願の自己目的化

基礎研究のレベルに対応した質の高い特許の取得が必要

産学共同研究は進展しているものの、大学等と企業との間の研究戦略の共有化・意思疎通が不十分

研究戦略の共有化・意思疎通の充実が必要

大学知的財産本部やTLOの活動がライセンス活動のみにとどまっている例も多い

共同研究のコーディネーター等橋渡し機能の強化が必要

国際標準化に向けた取組の強化が必要

対応策

1. 質の高い特許獲得に向けた戦略的対応
研究成果の事業可能性を評価できる人材の育成・確保
2. 産学の研究戦略の共有化・意思疎通の充実
共同研究やその成果の活用を行いやすくする柔軟なライセンスポリシーの構築
産学間の人材・情報の交流の促進
3. 大学知財本部・TLOなど産学間の橋渡し機能の強化
機能発揮のための体制の再構築
企業のニーズと基礎研究を仲介する共同研究コーディネーターの育成・確保
中長期的な事業計画等の策定及びそのレビューによるPDCAサイクルの徹底
4. 国際標準化活動への取組強化
用語の統一、計測・試験評価、安全性評価に関する産学官による国際標準化活動への取組強化